

研究課題名

血液透析患者における細胞外液量/総体液量比 (ECW/TBW 比), geriatric nutritional risk index (GNRI), modified creatinine index (mCI)が生命予後に及ぼす影響について

研究グループ

研究責任者：矢島 隆宏 (松波総合病院 腎臓内科)

共同研究者：荒尾 舞子

研究の目的および概要

血液透析患者さんにおいては、体液貯留が生命予後を悪化させることが知られています。生体インピーダンス法で得られる細胞外液量/総体液量比 (ECW/TBW 比)は、体液量の指標であり、ドライウエイトを設定するときの一つの指標とされています。ECW/TBW 比は一方で、強力な生命予後予測因子であることが報告されています。体液貯留は、腸管浮腫を介してバクテリアルトランスロケーション(腸管から血中への細菌の移行)から炎症を惹起し、長期的には栄養障害を起こす可能性が推定されます。しかし、今のところ ECW/TBW 比と栄養障害との関連は明らかになっていません。そこで、ECW/TBW 比と栄養障害の指標である geriatric nutritional risk index (GNRI: 一般的な栄養障害の指標), modified creatinine index (mCI: 年齢, 性別, 血清クレアチニン, 尿素クリアランスからなる栄養障害とサルコペニアの指標)との関連を明らかにするとともに 3 者の組み合わせにより、生命予後予測能が改善するか否か検討します。

この研究では、2008 年から 2017 年に当院にて外来維持透析中で、生体インピーダンス法にて体組成の測定がされた患者さんを対象とします。対象者の方々の診療記録と検査データ (血液, 生体インピーダンス法により得られた E/I 比) を用い、生命予後との関連について後ろ向きに分析を行います。2020 年までの生命予後を評価します。

検査データやカルテに含まれる情報をこの研究に使用する際には、個人の氏名の代わりに研究用の番号をつけて取り扱います。また、カルテを閲覧する研究者は最小限とします。研究用の番号がどなたのものであるかを示す対応表のファイルは、パスワードをつけて病院内のインターネットに接続できないコンピュータに保管し、研究終了後 5 年間保存後廃棄します。研究成果の発表に際し、個人が特定できるような情報が公開されることはありません。

利用する情報の項目

カルテ情報：診療記録と検査データ (血液, 生体インピーダンス法により得られた細胞内液量、細胞外液量、総体液量のデータ)

利用するものの範囲

矢島 隆宏

連絡先

松波総合病院

腎臓内科

矢島隆宏

TEL: 058 388 0111 代

FAX: 058 388 4711